

SDGs未来都市に選定

5月22日（月）、八頭町が2023年度「SDGs未来都市」に選定され、内閣府で行われた選定証授与式にて、岡田直樹内閣府特命担当大臣から岩見一郎副町長へ選定証が手渡されました。



岡田大臣（右）から選定証を受け取る岩見副町長（左）
（内閣府より提供）



SDGsとは

本連載では、これまで各ゴールについて触れてきましたが、今回はそもそもSDGsとは何か、改めておさらいしたいと思います。

「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で、2015年の国連サミットにて全会一致で採択された、2030年を年限とする17の国際目標です。地球上の「誰一人として取り残さない」をキーワードに、持続可能でよりよい世界への変革を目指しています。

SDGs未来都市とは

「SDGs未来都市」とは、SDGsの理念に沿った取り組みを推進しようとする都市・地域の中から、特に、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して、持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域を内閣府が選定するものです。

昨年度までに全国157都市が選定されており、このたび、新たに本町を含む28都市が選定されました。



鳥取県内では、智頭町および日南町（2019年度）、鳥取市（2021年度）ならびに鳥取県（2022年度）に続き、5番目の選定となります。

本町は、「八頭町SDGs未来都市計画」が輝き、未来が輝く「まち八頭町」と題し、農業振興や「雇用」を核とした「経済」地域産業の振興・雇用の促進、「まちづくり委員会や持続可能な地域交通の構築による「社

会」地域で安心して暮らせる仕組みづくり」、八東ふる里の森を中心とした環境教育や林業振興による「環境」森林の循環利用」の取り組みを進める提案を行いました。これらの特色ある地域資源を活用した三側面の課題解決が評価されたものと考えています。

この選定を契機に、町民の皆さんをはじめとする多様なステークホルダー（利害関係者）との連携を一層強固なものとする中で、SDGsの実現に向け、さらに持続可能なまちづくりを進めてまいります。

ここにもSDGs

17 パートナシップで目標を達成しよう



ゴール17

パートナーシップで目標を達成しよう

SDGsの達成には、多様なステークホルダーとの連携が鍵となります。「官民連携」「産学連携」等の言葉を耳にする機会はいくつかありませんが、なにも連携は、企業や教育機関に限ったことではありません。皆さん一人一人が気軽にまちづくりに参画し、協働できる「町民が主役」のまちを目指していきます。